

母の調子がイマイチである。食事は浮腫みもできてきた。いつも眠ってばかりで、起きている時間が少ない。食べている最中に、眠ってしまうので、口から食べ物が流れ出てしまう。摂取量が減る原因は、食欲がないというより、睡眠欲が盛大になりつつあることであった。先日は、おしっこが丸一日以上

器も正確な計測ができなかったのだと思う。

母は右半身に軽い麻痺がある。そのため、体全体の循環が滞るときまで右手や顔の右半分には水が溜まる。浮腫みは、体の調子を示すバロメーターのようなものだ。腎臓と心臓の働きが鈍っていることを教えてくれる。そんなときは、無理に飲み食べしないほうが、いいのかも

うな「休憩時間」が必要なのだろう。問題なのは、僕の不安を介助に投影させてしまうことに思う。

と言いつつも、母の食べるスィッチを発見してしまった。「朝バナナ」という飲む健康食品がある。水気が多いため、咽やすぐれた母には誤飲の恐れがあり、現役から控え選手となっていたところだが、あの水気が母の嚥下反射を誘発している節

ある。不思議なことにも、誤飲しにくいミキサー食を飲み込んでもせず、水分たっぷりのシヤバシヤバだと「ゴクリ」と喉を鳴らして食べたくなる。ミキサー食の粘度の調整が今後の課題だろう。

それにしても、あの手、この手で食事介助してしまうのは、介護職の悪い癖である。

しれない。脱水に配慮しながら、断食的生活を送ると良いのでは？と考へたりもある。

母の食事が減ると、ついつい心配が昂じてしまい、無理にでも食べてもらおうとしてしまう。介助が過剰になるのだ。でもそれは、かえって母の体に負担を与えてしまっているようにも感じる。循環が低調になったときこそ、低調でいられるよ

出なかつた。その日は、デイスーパーで測れませんでした。やつと計測出来たら、上が96下が83でした。血液中の酸素濃度は88%でした。入浴は止めて、シャワーにしていただきます」と連絡ノートに書いてあります。酸素濃度の数値から見ると、心不全を起こしているといつてよい。指先が冷たかったので測定

ふくろ日記 VOL.232

代表
村瀬孝生の

※

※

介助する側の不安が介助を過剰にする



古川整形外科

Furukawa Orthopedic Surgery

院長 古川 晃都 理学療法士 中塚 祥太

通院リハビリで
お悩みの方もご相談ください

**理学療法士・作業療法士の
個別リハビリ**
～ お気軽ににご相談ください ～

- 関節痛の悩み
- 運動の仕方
- マシンでの筋トレ
- 動作や歩行の安定
- 電気治療機器



受付時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
[午前] 9:00～12:30	○	○	○	○	○	○	△
[午後] 14:00～17:30	○	○	○	△	○	△	△

[病院代表]

☎092-557-8632

[リハビリ専用]

☎092-557-8615

南区長丘5-24-17
(長尾2丁目交差点、下長尾バス停そば)

